

- (1) 新成人式宣伝行動
- (2) 建交労新春旗開き  
宝の海を取り戻せ
- (3) 労災職業病相談会
- (4) 復興とは…

# SOLIDARITE 「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信

(No. 46)



対話重視の吉田さん

至りで気分が高揚している若者に対する対応姿勢は、「成人式」の一番の主人公は、「新成人」である事から、先ずは「新成人おめでとう」を言います！と会釈する事で、誰も悪い気はしない為、トラブルを招かない事としました。

## これからの社会を背負って立つ新成人へ

1月12日(日)大牟田市文化会館において、新成人式が行われる事を事前に掴み、社会の担い手である新成人たちに、職場でのお悩み、生活のお悩みは建交労を頼ってほしいとして、知名度アップ宣伝行動を行いました。地元紙発表では、大牟田市の新成人は90人台の事でした。



謙虚な対応の高橋さん

民間分会の仲間たちは、謙虚に祝福の声掛けしながら新成人や会場側を通る人たちにもチラシを手渡していました。そして、色んな新成人たちに対話する場面もありました。これからの社会の主人公に対し、私達建交労をアピールできた、この経験を民間分会の仲間たちが実感し、やり遂げたこの意義は非常に大きく、仲間たちの運動の「財産」であり、大牟田支部の「財産」、労働者解放運動の「財産」であると強く感じました。

大牟田支部・民間分会の仲間たちは、この1年間、雨に降られても、風に吹か



私事ですが、この日、姪が新成人として会場に参加しており、一族の宝の晴れ姿を写真に収められた事にほろりする場面もありました。(津波古)



両脇からチラシ配りの濱田さん・多田さん

それでも、熱い中でも、寒い中でも、新たな仲間を迎えたい強い気持ちで宣伝戦を制してきました。この粘り強い運動こそが、私達労働組合のとても大切な財産であると同時に、民間分会の仲間たちに大きな自信がつけられたと確信しました。今年は今以上にいくつかの改善をしながら、効力のある運動体になっていきます。

## じかたび

現在の療養中、杉本勝也さんからお手紙を頂きました。

ソリダリテ(2019年11月号)を久しぶりに読みました。

「どがしこでん(無料情報誌)」「子ども食堂に「いただきます」とかいてありました。

「アレコレ」私たちがもやっています。

①口の中を動かして舌を出したり、舌を回したりしています。

②言葉の早口(早口言葉)を言います。

それが終わったら「いただきます」。



NONO新春旗開き

労働者と市民の当たり前前幸福に向けて

1月6日(月)、建交労大牟田支部では、2020年の新たな闘いを、仲間たちと絆強くして運動を今年1年を通して大きくしていく意味でも、新春の旗開きを行いました。

旗開き開始前に、日本共産党大牟田地区委員長と市議会議員2名が新年の挨拶に見えていたとの事です。

そして本番、平川支部執行委員長の年頭の挨拶から、参加者全員で「カンパ〜イ」と元



気いっぱい出発の合図になりました。



新年から、これまで、そしてこれからも共闘していく福建労の矢野書記次長も「じん肺・アスベスト根絶」について展望を語られました。この日の夕方、現役組である民間分会の仲間たちが仕事を終え集いました。ぜひ大好き濱田副委員長は、何を遠慮されたのか例年より控えめな食べっぷりでした。写真をよく見ると、一升瓶が空っぽ：流石現役組。今年1年の闘いの頼もしさを窺わせる様子でした。

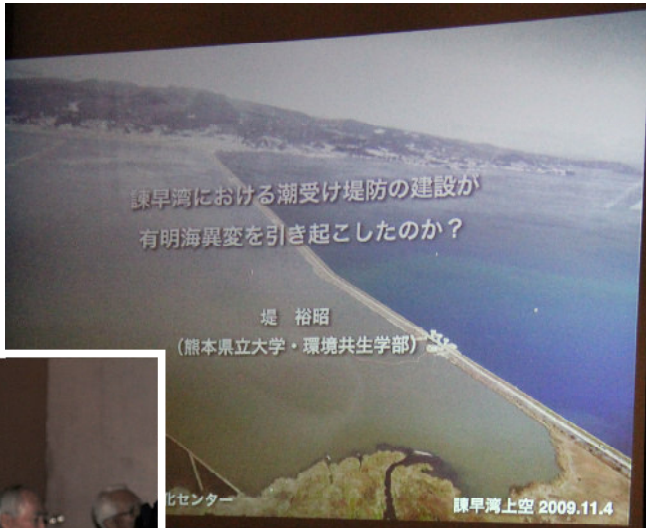
よみがえれ有明海！

—もう一度“宝の海”を取り戻したい—

1月26日(日)荒尾市総合文化センターで本集会が開かれました。皆さんもご存知の「諫早湾潮受け堤防排水門(通称・ギロチン)」での有明海環境破壊問題。国策で進められてきた諫早湾干拓地域への農業進出で、地裁・高裁・最高裁から高裁へ差し戻し。この闘いの



うねりを大きくするため集会開催となりました。3部構成で学者や法律家が諫早湾の実態に迫る環境破壊・生業破壊についてスライドを用いながら講演されました。大城嶺子さん・園田鉄美さんの曲「宝の海よ」が表すように「かつて、私たちが自然豊かで、そこで育つ魚介類の恩恵を



二比そうへい前参院議員・高瀬なお子県議会議員

受けていた」事を思い出すと、国のギロチン政策は、漁民にとっても農民にとっても、私たちにとても何もない事はなかった。むしろ、自然破壊と生業破壊とお互いの対立しか生まなかった。さあ、2月21日から福岡高裁での差し戻し審が始まります。今度こそ私たちが育つた「宝の海」を取り戻しましょう！



# 熊本県北で石炭じん肺以外の分野でも

## 今年最初の労災職業病無料相談会

昨年秋に決定していた、2019年最初の労災職業病無料相談会は、今も残る「石炭じん肺」・「造船じん肺・アスベスト」等を狙い目に、いくつもの会場を下見し、一番知名度が高く、荒尾市・玉名郡・玉名市の住民が分かりやすい会



万田炭鉱館

場は「万田炭鉱記念館」としました。

折込チラシは年末に手配し、1月15日の折込としました。

又、年始早々に立て看板を製作し、平川執行委員長より「荒玉地域は、あなたより俺が強かけん立て看板ば立ててくるたい！」と凄じい意気込み。

労職担当として、そこは否めない、「お願いします！」と一礼。



鉄工団地入口の立て看板

出来る限り住民の五感に訴えたいという思いから宣伝カーの道路使用許可を申請するが、県をまたぐと、管轄する警察署が違う事と、道路使用許可を無料申請するための条例も異なっていた。そして、1月18日に音

の宣伝を執行した。



概ね、立て看板が設置してある個所で原稿なしの突撃スポット宣言を行いました。

件の事前相談があり、三池炭鉱で働く前に発電所建設を担った事があり、呼吸器科医より「良性石綿胸水と中皮腫が認められるので労災の申請をした方がよい」と言われた方等がおられました。

### 1月25日(土) 相談会当

日は雨模様。これには流石に不安を覚えましたが、都合よく相談会開始時刻に雨は一旦止まりました。



造船所で働いてこられた方も2名見えられじん肺検査の受診を希望されており、騒音性難聴の症状を訴えられる方もいました。

中には、九州の火力発電所建設に携わり、アスベスト特有の胸膜肥厚が広がって写っていると掛かりつけの呼吸器科医に告げられた方もいました。

相談者には、大牟田支部が関係する医療機関での受診を紹介し、年金記録などの取得についても案内をしました。

今回、来所や事前電話相談された方々が、何の媒体を以って相談会を知ったのか聞いたところ、

自治体広報誌1名、新聞折込1名、配布したチラシ4名、郵送での案内7名、立て看板3名、電話での呼びかけ3名、大牟田支部組合員からの紹介1名でした。

13時〜16時までの内最初の2時間で相談者がどっと押し寄せ17名の方が見えられました。労職の大先輩である平川執行委員長の力を借りて、相談者の職歴や職場の環境など丁寧な聞き取りができました。

来所者数の半数以上は、元炭鉱マンで、23年前に閉山した時、まだ若かった方々は、池島炭鉱やトンネル工事へ転職されていました。

今回の相談会でも、未だに終わっていない炭鉱夫じん肺や、新たに発電所建設や造船で働いていた方々が、じん肺・アスベストの症状が出てきていると言う現実を知る事になりました。



